

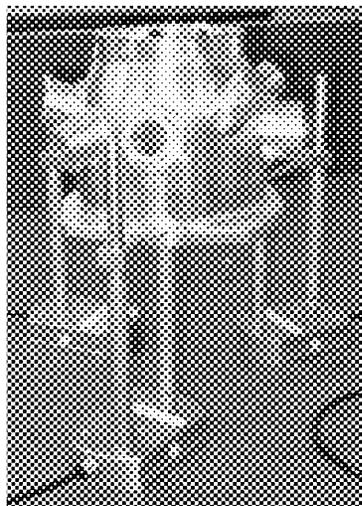
治具共同開発、営業で連携

【川崎】佐々木工機（川崎市高津区、佐々木政仁代表）とミットヨ（同区、沼田恵明社長）は、2社が共同開発して佐々木工機が商品化した治具「Airfix」（エアフィックス）22B1の営業・マーケティングで連携する。ミットヨのショールームや展示会場で、ミットヨの測定機や治具と組み合わせて展示し、一体で売り込む。ミットヨの販路も活用し、国内外で顧客獲得を狙う。（編集委員・宇田川智大）

Airfixは右空にすることで、盤面定盤や3次元測定機のに吸着させる。吸着力テーブル上に、検査やは200坪に上る。測定の対象物を固定させるための治具。中に置いて、測定物の位置を固定する。圧縮空気を注入して高速の気流をつくり、下のくぼんだ箇所を真

佐々木工機・ミットヨ

を凌ぐと、盤面から簡単な剥がせる。ミットヨの固定具と併用すれば、さまざまな形状を凌ぐと、盤面から簡単な剥がせる。ミットヨの固定具と併用すれば、さまざまな形状



共同開発した治具「Airfix」（右定盤の上に3個並んだ箱状のもの）

内外で顧客獲得

川崎市産振財団が橋渡し

を活用して2社共同でも検討する。開発し、佐々木工機が製造元となつて3月に受注を始めた。商品化を受け、営業面でも協力する。手始めにミットヨの本社ショールームで、同社主力の3次元測定機や固定具「Ecolfix」との組み合わせで展示を始め、11月に東京・有明の東京ビッグサイトで開かれる日本国際工作機械見本市（JIMT OF）のミットヨの展示ブースでもAirfixを紹介。ミットヨと取引がある機械工具商社や、海外のグループ企業を通じた販売も検討する。両社を取り持ったのは、大企業が保有する休眠特許や開放特許の活用を、地元の中小企業に働きかけている川崎市産業振興財団。佐々木工機にとつて空圧機器の扱いは「得意分野」（佐々木代表）であることから白羽の矢が立った。ミットヨ側も「投資の判断が難しい」（研究開発本部知的財産管理課の植田兼史氏）隙間市場を攻める上で、小回りが利く佐々木工機との連携は有意義と判断した。両社はミットヨが保有する別の特許技術を生かした製品開発にも取り組んでおり、実用化に向けて連携を強化する構えだ。